

「富士山登山鉄道構想」の進捗状況について

資料5



登山鉄道構想説明会の実施状況

※太字下線 知事による説明

R5年度 現状の富士山の課題を説明

・ 県政出張講座 3回 約200人参加

・ 関係市町村対象構想説明会 6回 約1,360人参加

・ 総合計画・県政課題に関する説明会 6回 (この他、R6年度に4回実施)

・ 各種団体を対象とした説明会 11回 約200人参加

R6年度 富士山登山鉄道構想について担当職員が住民と直接意見を交わす場の開催

・ 持続可能な富士山のための新交通システム意見交換会
(富士北麓地域での少人数の座談会形式) 14回 54人参加

・ 要望を受けての意見交換会 4回 約50人参加

・ 県政出張講座 2回 約75人参加

・ 「富士山登山鉄道構想」に関する意見をうかがう会 R6.11.13開催

富士山登山鉄道構想について 論点を明確にさせた

●各団体で共通した主張【鉄道の敷設への反対】

- ・鉄道は初期投資が過大だけでなく、附帯施設も含め、大規模工事となり自然破壊が避けられない（鉄路は反対）

●質疑から確認できた情報

- ・富士山の大幅現状変更は認められないが、防災やライフラインについては許容される
- ・EVバスだけが代替手段ではない。
環境負荷や大規模工事に配慮していれば手段となり得る。
- ・冬季入山については一定の節度を持った範囲まで

●得られた共通認識

- ・来訪者コントロールは必要
- ・来訪者管理（分散化）には麓からの登山も普及すべき
- ・麓の二次交通の拡充も必要

様々な観点から様々な議論が
活発に交わされることが重要

解決に向けて
集合知の形成

富士山五合目までの新交通システム



(仮称) 富士トラム

- ゴムタイヤ
- レール無し



- ゴムタイヤの使用（鉄レール不要）
 - ・ 大規模工事不要 ⇒ 大幅コストダウン
 - ・ 既存道路の活用
- 誘導方式の採用（白線や磁気マーカー）
 - ・ **軌道法の適用**：**来訪者コントロールの実現**
(バス＝道路交通法では不可)



磁気マーカーもしくは白線による誘導イメージ



新交通システムを核としたグランド・ビジョン

